

壁を完うす

① 趙の恵文王嘗て楚の和氏の璧を得たり。  
は 以前

② 秦の昭王十五城を以つて之に易へんことを請ふ。  
は の 都市 と 交換し よう という 提案した

③ 与へざらんと欲すれば、秦の強きを畏れ、  
壁を 与えたくない 思う ならば が 強い ということ

与へんと欲すれば、欺かるるを恐る。  
与え よう 思う ならば 騙さ れる 恐れる こと

④ 藺相如曰はく、「願はくは璧を奉じて往かん。  
が 言うことには どうか 私が 捧げ持つ 秦に 行かせて 下さい

⑤ 城入らずんば、則ち臣請ふ璧を完うして帰らん。  
都市 が手に なけれ 私 は もとのままの状態 で 帰り ましょう と。

⑥ 既に至る。秦王城を償ふに意無し。  
とつくに 到着した は 都市 交換する 気持ち が なかつた

⑦ 相如乃ち給きて璧を取る。  
は そこに 欺い 奪つた 怒つた髪 が 突き刺した

⑨ 柱下に却立して曰はく、「臣が頭は璧と俱に碎けん。」  
の もと 後ずさりし 言うことには 私 の 共に 碎ける だろう と。

⑩ 従者をして璧を懷きて間行して先づ帰らしめ、  
に 持たせ 秘かに行かせ 先に せ

自身 秦の昭王の 格助 命令 で 待っていた 身は命を秦に待つ。

⑪ 秦の昭王賢とて之を帰らしむ。  
は 藺相如を と 賢者である 藺相如 せ た 断定